誰にでもできるロッドクラフト

ブランクそれぞれに個性があるように、ロッド作りもロッドビルダーの数だけノウハウがあると言ってよく、
だからこそカスタムロッドの楽しさがあります。
ここに記すのは、あくまでベーシックな方法です。
今後さらに効率的でより良い仕上げを求める場合は、積極的にプロショップ様や熟練の方におたずねください。
では、楽しく安全にロッドクラフトにチャレンジしてください。

ご注意
たとえ保証期間内であっても、改造したロッドはメーカー様の保証対象外となります。
この点を十分ご理解の上、ロッドの改造は、あくまでもご自身の責任で行ってください。

縛り式ガイド・トップガイドの取り外し

ツール

ドライヤー

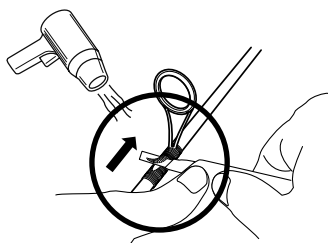
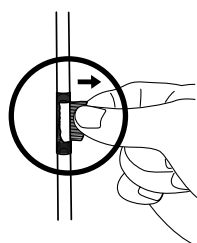
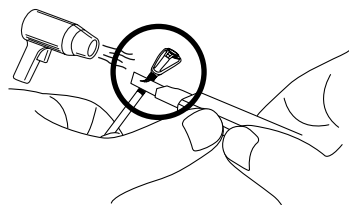
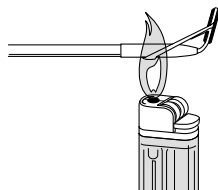
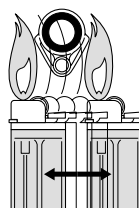
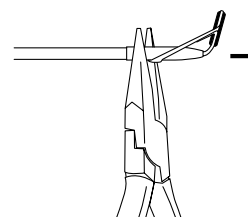
カッター　プラスチック定規

マスキングテープ

ライター

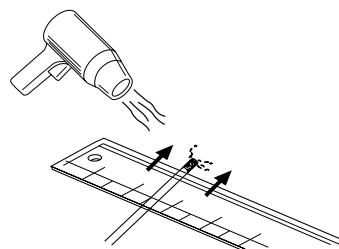
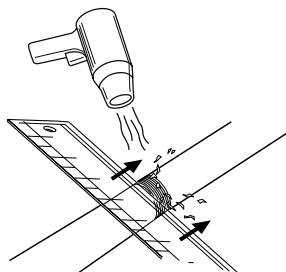
ラジオペンチ

① ドライヤーで温め、カッターでコーティングとスレッドを取り除きます。

⚠カッター、薬品、ドライヤーやライターの熱などの取り扱いにご注意ください。

コーティングとガイドが重なっている部分に刃を入れ、　コーティングをむしって、　スレッドも取り除く。

② トップガイドはライターで軽くあぶって外します。
あぶり過ぎるとブランクが焼けてしまうので、
注意してください。

炎の腹で…

サッサッという感じで、
あくまで軽くあぶり…

ラジオペンチでまっすぐ引き抜く。
※捻るとブランクが痛む。

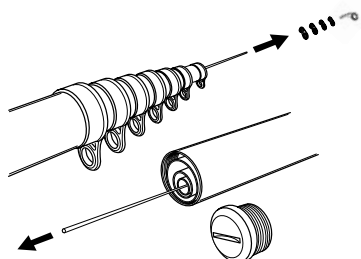
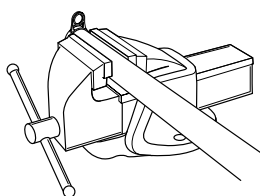
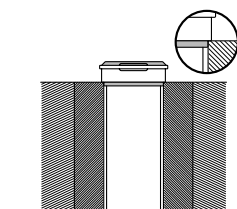
⚠ 本来ブランクの保護を考えれば、直火であぶることは避けるべきですが、実際にはドライヤーレベルの熱ではなかなかトップガイドは外れません。どうしても直火使用を避けたい場合は、その他の方法について、プロショップ様や熟練の方にご相談ください。

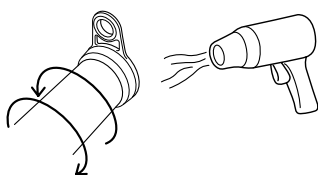
⚠ あぶった際、トップガイドが飛び出ることがありますので、周囲の安全にご注意ください。

③ ドライヤーで温めながら、定規の角でコーティング、
接着剤を取り除きます。

⚠ この時、トップガイドや接着剤は熱くなりますので、やけどにご注意ください。

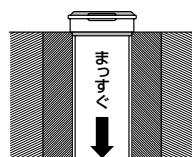
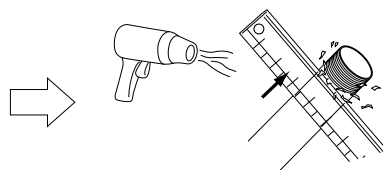
口金ガイドの取り外し

ツール

① まず、外したい箇所より穂先側にあるトップガイドと遊動ガイドをすべて外し、そのブランクを抜き取ります。
※トップガイドの外し方は、前記と同じです。

② あらかじめ、万力をちょうどいい広さにしておきます。

⚠ 竿を直接万力で挟まないようにご注意ください。
また、万力に触れそうな部分には、マスキングテープを巻くなどして竿を保護してください。

⚠ 万力の縁に引っ掛ける箇所は、金属フレームの下端です、
樹脂部に引っ掛けると、ガイドの変形・破損の恐れがあります。

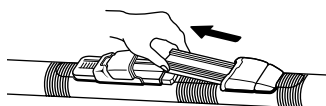
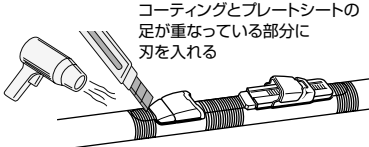
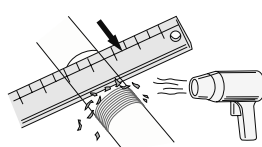
③ ドライヤーで口金ガイドを熱します。
この時、竿を回しながらガイド全体を充分に熱します。

⚠ 直接火であぶると、
竿が焼けたり、ガイドが変形します。

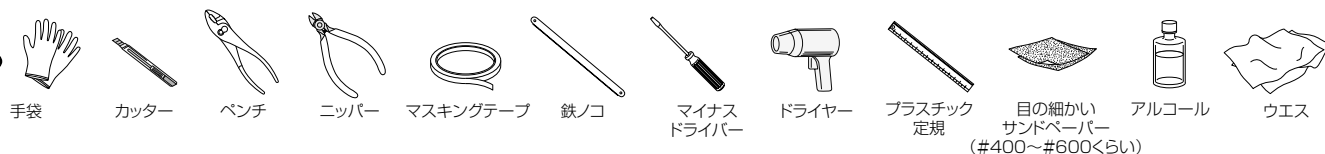
④ すばやく竿を万力にセットし、まっすぐに引き抜きます。

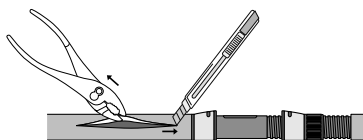
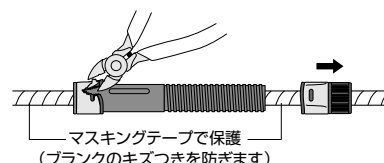
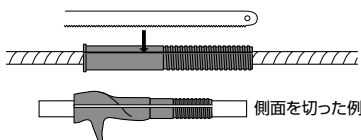
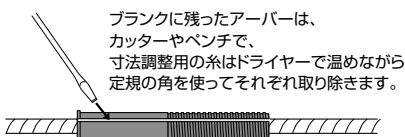
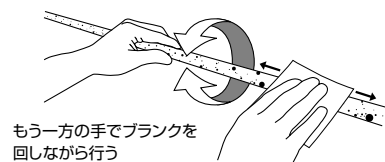
⚠ 竿は必ずまっすぐに引き抜いてください。
斜めに引き抜くと、竿を痛めたり、破損する恐れがあります。

⑤ 口金部に残った接着剤は、ドライヤーで温めながら定規の角を使って取り除きます。

一度で外れない場合は、③④の手順を繰り返してください。この方法で外れない場合は、お求めの小売店様、竿メーカー様にお問合せください。

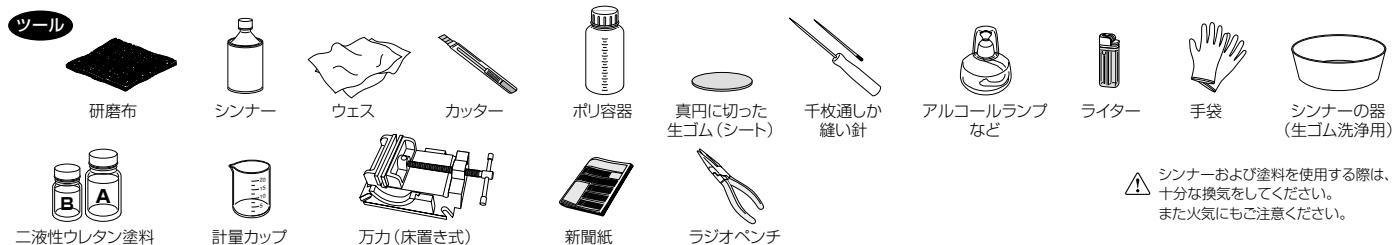
プレートシートの取り外し

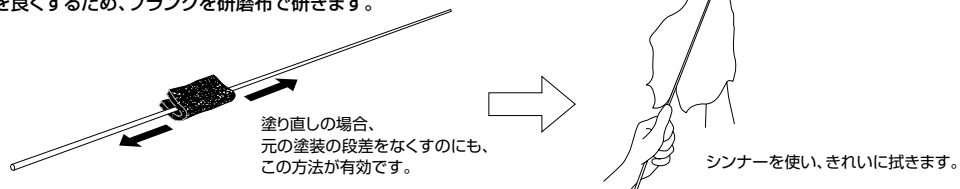
ツール

① NSシートの場合は、
まずプラスチックカバーを外します。

② ドライヤーで温め、カッターで
コーティングとスレッドを取り除きます。

③ 残ったコーティングも、ドライヤーで
温めながら定規の角を使って取り除きます。

グリップ部の取り外し

ツール

① カッターでリアグリップに
切れ目を入れ、ペンチで挟んで
むしり取ってゆきます。
(フォーグリップも同様)

※深く切り過ぎて、ブランクを
キズつけないように。
※切れ目は数本入れると作業がラク。

② スライドフードを外し、
固定フードをニッパーで切断して
取り除きます。

③ 鉄ノコで、パイプシートの
側面数ヶ所に切れ目を入れます。

④ 切れ目にマイナスドライバーを
差し込んでコジ開けるか、
ペンチで挟んで取り除きます。

⑤ 仕上げにサンドペーパーで
カスを取り除きます。

ブランクの塗装　～引き抜き式～

ブランク塗装の技が熟練を要することは言うまでもありませんが、ここに紹介するのは、あるプロショップ様が用いている、ツールなども比較的手軽な方法です。
また、これ以外にもエアブラシを使ったり、ロッドビルダーによって色々な方法が行われています。

⚠ シンナーおよび塗料を使用する際は、十分な換気をしてください。
また火気にもご注意ください。

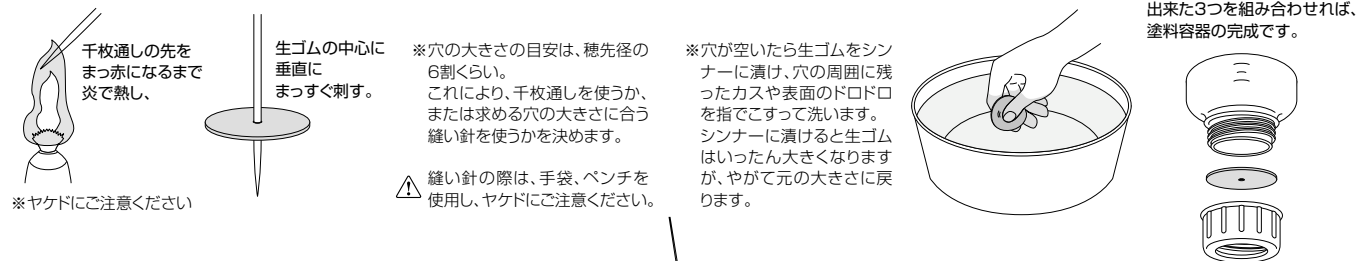
①塗料の密着性を良くするため、ブランクを研磨布で研ぎます。

②ポリ容器と生ゴムシートを加工します。

生ゴムの中心に穴を空ける。

※穴の大きさの目安は、穂先径の6割くらい。
これにより、千枚通しを使うか、または求める穴の大きさに合う縫い針を使うかを決めます。

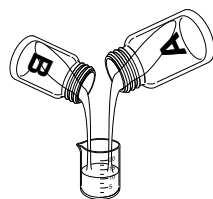
⚠ 縫い針の際は、手袋、ペンチを使用し、ヤケドにご注意ください。

※穴が空いたら生ゴムをシンナーに漬け、穴の周囲に残ったカスや表面のドロドロを指でこすって洗います。シンナーに漬けると生ゴムはいったん大きくなりますが、やがて元の大きさに戻ります。

出来た3つを組み合わせれば、塗料容器の完成です。

③ 塗料を作ります。

塗料を計量カップに入れ、よくかき混ぜる。

※混合比、可使時間、乾燥時間など、必ず取扱説明書の指定にしたがってください。

混合直後から硬化がどんどん進む二液性エポキシコーティング剤などと違い、二液性ウレタン塗料は、製品によって、混合後ある程度の時間を置いてから塗ったほうが、仕上がりが良くなる場合がありますので、1回の使用料なども含め、お求めのプロショップ様、あるいは塗料の製造メーカー様におたずねください。

④ ブランクを万力にセットします。

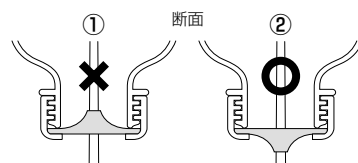
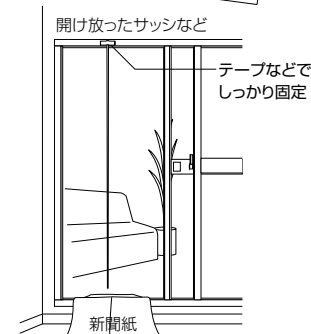
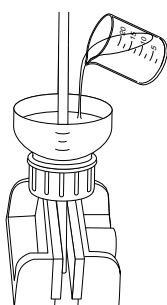
穂先を上にして、ブランクを万力にまっすぐ立て、
穂先から通した塗料の容器をいちばん下まで降ろします。

この時、キャップ内の生ゴムの中心は、
上に引っ張られて①のような状態となりますが、
生ゴムとブランクの間に塗料がうまく入り込むように、
容器を少し持ち上げて②のように調整します。

⑤ いよいよ塗ります。

容器に塗料を移し、

しゃがんだ姿勢から、
立ち上がり、
容器をひと息に
持ち上げ、
そのまま容器を
穂先から外します。

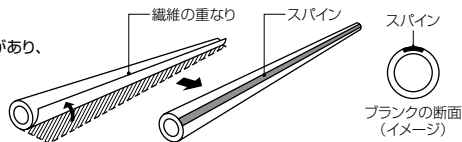
※使った生ゴムは1度で捨てず、何度か使ったほうが馴染む場合があります。

塗装後、液ダレが起こりやすいのは穂先部です。
その処置として、塗装に触れないスペースに
穂先を下にして吊り下げ、乾燥を待ちます。

- ●クリア系塗料は、ブランクの地肌が見え、仕上がりもキレイです。
- ●白色をキレイに仕上げるのは難度が高く、馴れるまでは乾いては塗り、乾いては塗りを数回行わなければならないことが多いです。失敗したらシンナーで塗料を拭き取って再チャレンジ!
- ●完成色を赤や黄にする場合は、下地に白を塗らないと、狙いの色が出にくいです。
- ●使用した容器は、残った塗料を乾燥させてから取り除きます。きれいに塗料がはがれ、簡単にきれいにすることができます。
- ●使った生ゴムは1度で捨てず、何度か使ううちに穴とブランクとの馴染みが良くなることがあります。その場合、使用後シンナーに漬け、塗料をキレイに拭き取って保管します。

ロッドコンポーネントを取り付ける前に……

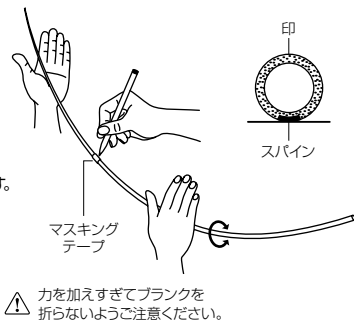
ブランクのスパイン出し

ブランクの背骨

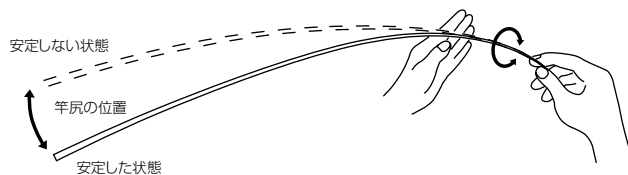
ブランクには、肉厚で最も反発力が強い「スパイン」と呼ばれる部分があり、
ロッドコンポーネントは、このスパインを基準として取り付けます。

※実際のスパインは真直ぐでは無く、スパイラル状に入っているものや、また複数のスパインが見られるものがほとんどです。
一般的には一番強いスパインの向きを基準にガイドをセッティングします。

スパインの見つけ方

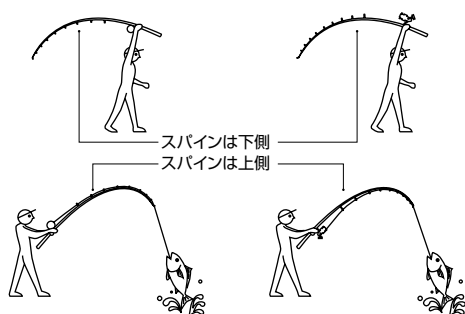
① バット部のスパインを重視した見つけ方

竿尻を床や机の上に置き、
竿先を手の平に乗せます。
次にもう一方の手の平でブランクを
押しながらゆっくり回すと、
クルッと反発するところがスパインです。
この時スパインは真下にありますから、
その正反対にあたる真上に仮りの印を付けます。

⚠ 力を加えすぎてブランクを
折らないようご注意ください。

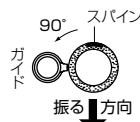
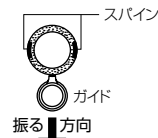
② ティップ部のスパインを重視した見つけ方

右手で竿先を持ち、左手で穂先部を支えるようにします。
右手でブランクをゆっくり回転させると、ブランクが安定して止まるところと、
安定しないで回転しようとするところがあります。これはスパインがあるためです。
このとき竿尻は、安定する状態で最も低く、安定しない状態で最も高い位置になります。
これは、安定する状態では竿の側面に、不安定な状態では竿の上面に
それぞれスパインがあることを示しています。

⚠ グリップ、リールシートが装着されたワンピースロッドなど、
竿尻に重量がある場合、寝かせた状態からいきなり穂先を持ち上げると、
ブランクが折れることがありますのでご注意ください。

●スパインとロッドコンポーネントの位置関係

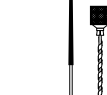
一般的には、ベイトキャスティングロッドの場合はスパイン側に、
スピニングロッドの場合はスパインの反対側に、それぞれガイドを取り付けます。

こうすればキャスト時のスパインはロッドの下側になり、ロッドがネジレずまっすぐ
振ることができ、しかも魚を釣り上げる時のスパインはロッドの上側になるので、
ロッドパワーが最大限に生かされる、という考えです。

しかし、下記のような考え方もあります。

a) 軟らかいベイトキャスティングロッドの場合、スパインの90°横に
ガイドを取り付けるセッティングが有ります。
これは、キャスティング時に、スパインがブランクの上になる様にし、
キャストの方向性を安定させる考え方です。

b) フライロッドや軟らかいスピニングロッドの場合も、スパインの
90°横にガイドを取り付けるセッティングが有ります。
これは、スパインが複数見られる場合、曲がりやすい部分にガイドを
取り付け、両サイドを硬くする事でブレを抑えるという考え方です。

上記の様に、基本は、「ベイトは背に、スピニングは腹に。」ですが、ご使用になるブランクの特性、
使用目的に合わせてスパインの位置を基準にガイドのセッティングを行って下さい。

グリップ部の取り付け

⚠ カッターや工具類、
薬品などの取扱いにご注意ください。

ツール

二液性エポキシ接着剤　ヘラ　接着剤の練り台（プラスチック板 もしくは メモ帳）　握り糸やタコ糸（太さ各種）　瞬間接着剤　キリ　棒ヤスリか電動ドリル　カッター　ハサミ

マスキングテープ　（場合によって）コルクテープ　ルーター　サンドペーパー　ツマヨウジ　綿棒　ウエス　アルコール

⚠ グリップ部の取り付けには、一度硬化してしまうと修正ができないため、作業時間が長めのエポキシ接着剤を使うことをおすすめします。

⚠ 二液性エポキシ接着剤は、ガイドのコーティングに使う「二液性エポキシコーティング剤」とは異なります。

⚠ ご使用前に取扱説明書をよくお読みください。

取り付けは、まずグリップ部から

※ガイドから取り付けると、グリップ部のコンポーネントがブランクに通せなくなります。

- ●取り付け前に、各コンポーネントをブランクに通して仮組みし、ブランクへのマーキングと加工・寸法調整のプランを立てましょう。
- ●慣れないうちは、ひとつずつを確実に接着し、それが固まったら次へ、という具合に、アセらずに工程を進めましょう。
- ●取り付け前に、ブランクをアルコールで拭きましょう。
- ●ハミ出した接着剤は素早く取り除き、その跡をすぐにアルコールで拭きましょう。

グリップ素材の形状加工 ～ボール盤を使った場合～

⚠ご注意　これはボール盤という、あまり身近にない電動工具を用いた例です。また、ボール盤に取り付ける軸や軸受けが不適切な場合、回転中に軸がブレて非常に危険です。不慣れな方は、作業の前に必ずプロショップ様にご相談ください。
※長いグリップを加工する場合は、特にブレやすいので、十分ご注意ください。

ツール

防護メガネ

ボール盤
※取扱説明書をよく読んでからご使用ください。

軸受け
これはコルクグリップを改造した例。ここに長ねじを通してブレを防ぐ。ボール盤の受け台の穴にキツめのもの。

長ねじ（軸）
※ナット、ワッシャー付き。グリップ素材の内径に合った太さのもの。

グリップ素材と長ネジにスキ間がある場合

マスキングテープ

スパナなど
※長ねじのナットを締めるもの。

サンドペーパー
以下の番手が、おおよその目安です。

	EVA	コルク
形を作る	40番	80番
↓形を整える	80番	180番
↓表面を磨く	100番	240番

※良質なコルクの場合、240番のあと、さらに320番を使う。

例えば、このフォーグリップを・・・

こういう風にしたい場合。

軸となる長ネジにグリップ素材を通し、両側をナットとワッシャーでしっかり固定したら、ボール盤にセットします。

※ナットを締め過ぎてグリップを破損させないよう気をつけてください。

※ナットのゆるみ防止のため、ボール盤のチャックとナットの間を空けない。

必要！
軸受け
これはコルクグリップを改造した例。ここに軸をしっかり通し、ブレを防ぐ。

●安全について万全の準備が整ったら、ボール盤の電源をONにして回転させ、グリップ素材にサンドペーパーを当てて削ってゆきます。

※軸に巻き込まれる恐れがあるため、手袋の着用はおやめください。また袖など、着衣が巻き込まれないよう十分お気をつけ下さい。
※作業中に軸がブレはじめたら、危険なため、すぐに電源を切り、機械の回転を止めてください。
●使うサンドペーパーは、はじめは目の粗いもの、そして順に目の細かいものに3～4段階に分けて変えてゆきます。

・ほんの少しの加工なら、電動工具を使わず、カッター&サンドペーパーという手作業が安全ですが、なかなか上手くいきません。
・グリップ加工には、旋盤機も多く活用されています。
・グリップ加工時は必ず防護メガネをし、目を保護してください。

リアグリップの接着

① ブランク径とグリップ内径寸法にスキ間があれば、糸を巻いて調整しますが、この場合、ブランクのテーパーを考え、スキ間の大小によって糸の太さを変えます。
※細い糸を何重にも巻き重ねないように
※接着剤が行き渡るよう、糸は密に巻かず、少しスキ間を空けて巻く。

② グリップを押し込んだ時に、糸がズレて一方に寄ってしまわないように、ところどころを瞬間接着剤で固定します。糸を巻くのは寸法調整のためだけでなく、グリップを押し込んだ時、接着剤が均等に残るようにするためでもあります。

逆に、グリップ内径よりブランク径のほうが大きい場合は、グリップ内径を棒ヤスリで削る。

③ 二液性エポキシ接着剤を塗り、グリップを回しながら押し込みます。はみ出した接着剤はすぐ拭き取り、はみ出しそうな余分は先に取り除きましょう。

バットキャップの接着

①-A グリップに接着する場合

A′B′の印に沿ってグリップの外径をカッターで注意深く切り取ります。

①-B ブランクに接着する場合

ブランク（A′部）にマスキングテープやコルクテープを巻いて寸法調整します。

② 二液性エポキシ接着剤を…

✕キャップ側に塗ると合わせ目がしっかり接着できなかったり、ブランクの内側に入り込んでしまいます。

マスキングテープで固定。

バットプレートの接着

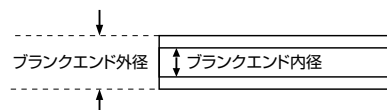
① もし、ブランクエンドに接着カスが残っていればドライヤーで温め、キリで取り除きます。

② サイズの合うバットプレートをグリップエンドに接着します。

二液性エポキシ接着剤

乾くまでマスキングテープで固定。

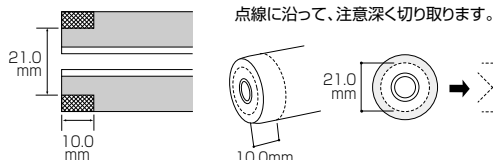
ウェイトバランサーの接着

⚠ご注意
●ソリッド竿のように中空でない竿には、以下3つのウェイトバランサーは取り付けられません。
●FUJIウェイトバランサーが取り付け可能な竿には、それぞれ以下の条件が必要です。
TWBC‥‥ ブランクエンド内径4.5mm以上、外径21.0mm以下であること
EWBC‥‥ 〃 内径5.0mm以上、外径21.0mm以下 〃
WBC‥‥‥ 〃 内径4.6mm以上、外径17.0mm以下 〃

●外嵌め式の場合

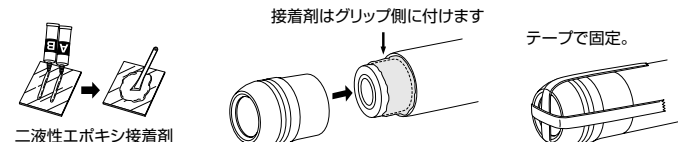
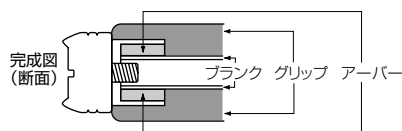
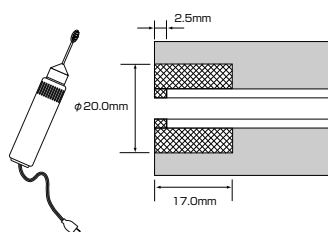
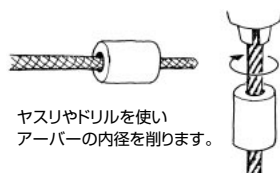
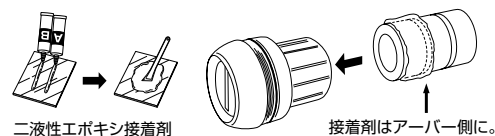
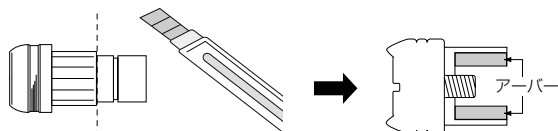
TWBC

EWBC

※以下、グリップの加工寸法と作業手順は、TWBC・EWBC共通です。

① カッターを使い、グリップエンドの斜線部分をカットします。

② ウェイトバランサーをグリップに接着します。

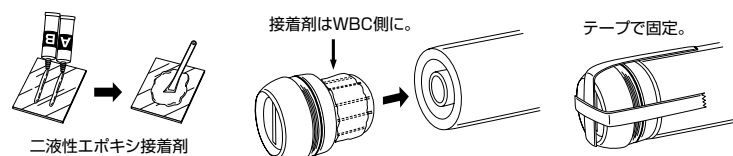
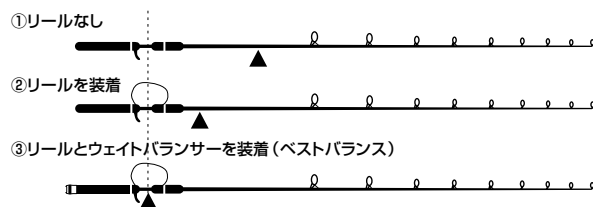
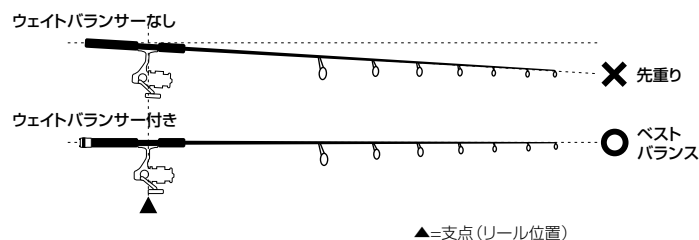
●内嵌め式の場合

WBC

① ルーターで、斜線部分のグリップとブランクを削ります。

② アーバーの内径を、ブランクエンドの外径に合わせて削ります。アーバーは、FUJIアーバーのUA-17かCA-17をお奨めします。

③ アーバーをWBCの内側に接着します。

④ 接着剤が乾いたら、アーバーをWBCの長さに合わせ、カッターなどで切ります。

⑤ WBCをグリップに接着します。

ウェイトバランサーとは

①リールなし

②リールを装着

③リールとウェイトバランサーを装着（ベストバランス）

たとえ軽いロッドでも、ティップが先重りしていれば、長時間の釣りでは手首や腕が疲れやすくなります。この場合、グリップエンドにウェイトバランサーを取り付けてロッドのバランスを調整すると、ロッドの総重量は重くなりますが、実際の釣りでは逆にロッドが軽く感じ、疲れが少なくなります。つまりウェイトバランサーは、ロッド重さの釣り合いをとるためのコンポーネントです。

③のように、リール位置がロッドの支点になるようにウェイトバランサーを取り付けます。取り付けるウェイトは、リールが軽ければ軽めに、リールが重ければ重めに調整します。FUJIウェイトバランサーなら、このウェイト調整が簡単なため、たいへん便利です。

ロッドが軽く感じ、長時間の釣りがラクに!

ティップが軽く感じることで、よりアタリに敏感に!

操作性アップ バランスアップで、キャストからランディングまで、ロッドの操作の精度もアップ!

パイプシートの接着

① 寸法調整とアーバーの接着
ブランク径とパイプシート内径とのスキ間が大きい場合は、
この例のようにアーバーを使います。
マスキングテープやコルクテープを用いても便利ですが、
がっちりシートを止めるなら、アーバーがベストです。

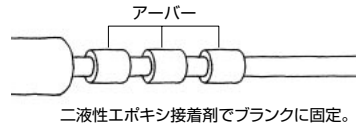
アーバー内径が小さい時

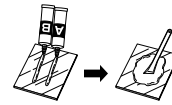
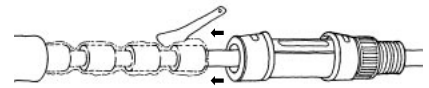
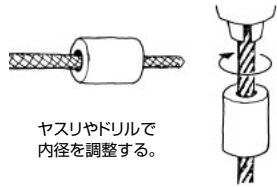
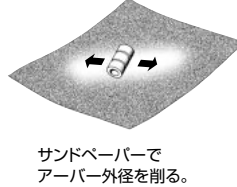
ヤスリやドリルで
内径を調整する。

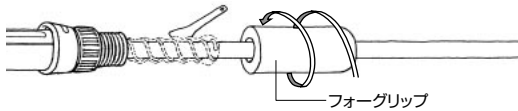
アーバー内径が大きい時

グリップ同様、糸を巻いて
瞬間接着剤で固定。

アーバー外径が大きい時

サンドペーパーで
アーバー外径を削る。

② アーバーの接着剤が乾いたら、パイプシートも接着します。

二液性エポキシ接着剤

※リール装着面を、設定したガイドの
取り付けラインに合わせます。

全体に接着剤が回るように、パイプシートをゆっくりまわしながら、
押し込んだり戻したりしながら最後に向きを合わせます。

フォーグリップ、メタルパーツの接着

●フォーグリップ
リアグリップと全く同じ要領で、必要に応じて寸法調整したのちに、
二液性エポキシ接着剤で取り付けます。

●メタルパーツ（この場合は、固定式フォーグリップ用ワインディングチェック）
図の面に二液性エポキシ接着剤を付け、フォーグリップの先端に接着します。
固まるまで、マスキングテープで固定します。

ガイドの仮り止め

※二液性エポキシ接着剤は、ガイドのコーティングに使う
二液性エポキシコーティング剤とは異なります。

目の細かい
ヤスリ

目の細かい
サンドペーパー

ウエス

アルコール

二液性
エポキシ接着剤

ヘラ

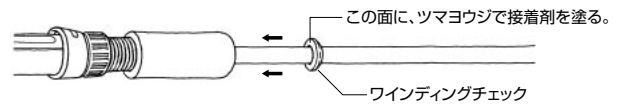
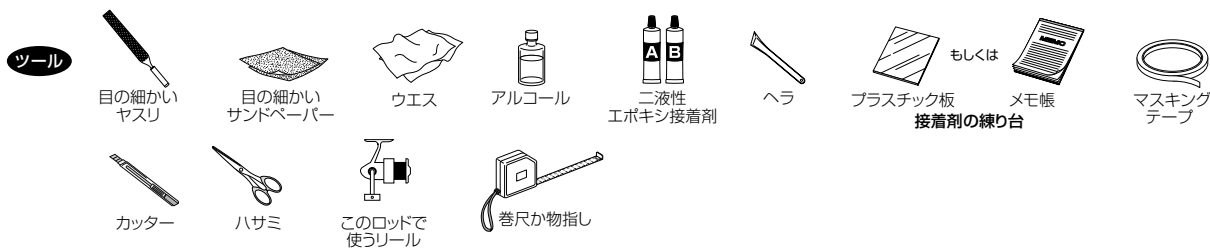
プラスチック板　もしくは　メモ帳
接着剤の練り台

マスキング
テープ

カッター

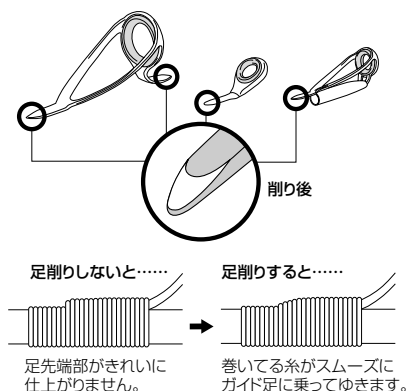
ハサミ

このロッドで
使うリール

巻尺か物指し

ガイドの足先削り

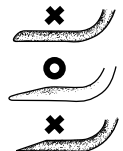
ブランクとガイドの段差を減らし、スレッド乗りを良くするため、ガイド足の先端を斜めに削ります。

足先端部がきれいに
仕上がりません。

巻いてる糸がスムーズに
ガイド足に乗ってゆきます。

⚠ ケガにご注意ください。
ガイドをしっかり固定し、
足先の斜面に沿って、グッ、グッと
ヤスリを向こうに押すように削ります。

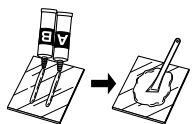
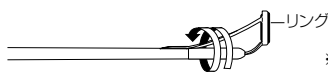
さらにサンドペーパーで仕上げ…
（サンドペーパーを
ヤスリに巻きつけた例）

金属粉をすべて取り除き、
アルコールで拭きます。

※ブランクやスレッドをキズつけないよう、刃物のように鋭く削らないように。
※削りカスの金属粉は、ガイドからすべて取り除いてください。残っていると、腐食の原因となります。

トップガイドの接着

トップガイドだけは、この段階で接着します。

ブランク径に合ったトップガイドを、
向きを間違えないように接着します。

リング

※回しながら差し込み、リールシートに
向きを合わせる。

※リングが、設定したガイドの
取り付け側になる様に。

あくまで応急用の強度ですが、「FUJIホットグルー」が釣り場にあれば、トップガイドの着脱に便利です。
熱溶解性の固形接着剤で、炎で加熱するだけですぐ溶け、2〜3分で硬化します。

FUJIホットグルー
F-GLUE-J

希望小売価格
¥250

※金属トップガイド専用です。
※ULトップとULMガイドには
ご使用になれません。

1
FUJIホットグルーを
炎で溶かし

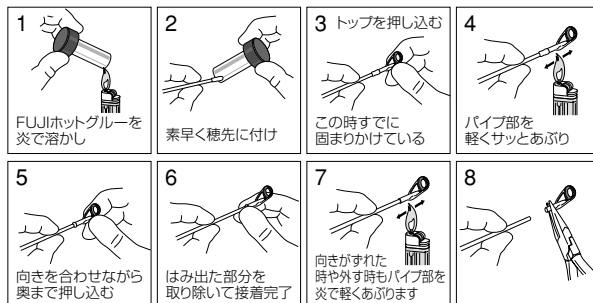
2
素早く穂先に付け

3 トップを押し込む
この時すでに
固まりかけている

4
パイプ部を
軽くサッとあぶり

5
向きを合わせながら
奥まで押し込む

6
はみ出た部分を
取り除いて接着完了

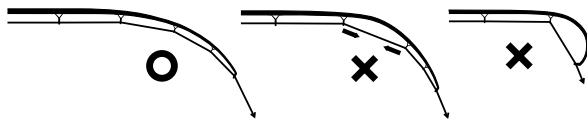
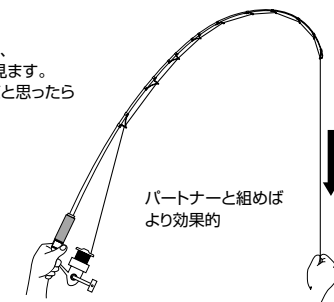
7
向きがずれた
時や外す時もパイプ部を
炎で軽くあぶります

8
ガイドの仮り止め

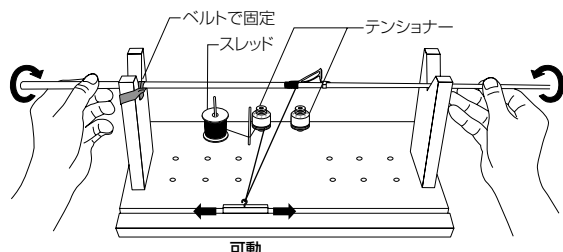
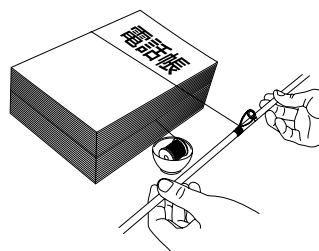
トップガイドの接着剤が乾いたら、マスキングテープを使って
第1ガイドから順にバットガイドまで仮り止めしてゆきます。
まだガイド位置を決めていなければ、
P.26〜31『参考ガイドスペック』をご覧ください。

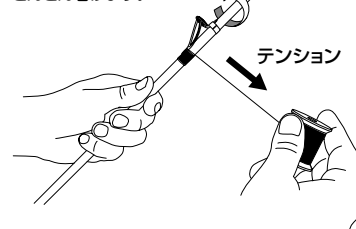
※スレッドが乗るように足先を出しておく

ブランクの曲がりテスト

スレッドを巻く前に、ブランクとガイドポジションの相性を確かめましょう。

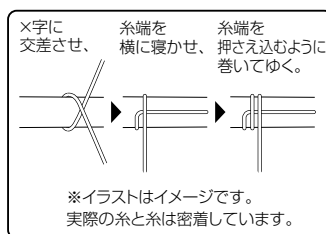
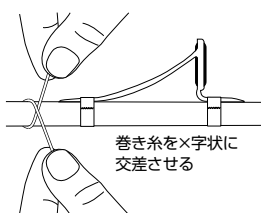
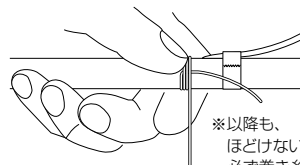
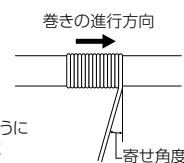
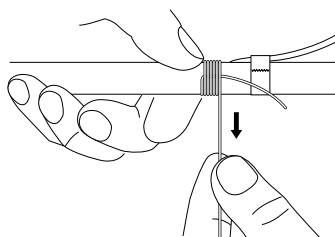
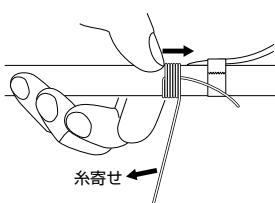
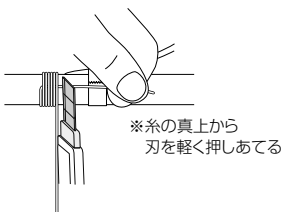
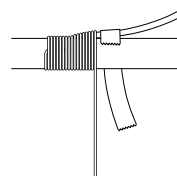
ガイド位置は、ブランクのアクションに応じて決める必要があります。配置を誤ると、ガイドどうしが絞られる方向に力が働き、ブランクが折れやすく、ライン抵抗も大きくなります。
ガイドをバランスよく配置すれば、ブランクにかかる応力をうまく分散でき、折れにくくなると同時にガイドを通るライン角度は小さくなり、ライン抵抗も少なくなります。

仮り止めが終わったら、リールをセット。
ガイドに通したラインを少し強めに引いて、
ブランクが無理のないカーブを描くかどうか、
ラインがしっかりブランクに沿っているかを見ます。
ブランクの曲がりやラインの角度が不自然だと思ったら
"トップに向かうにしたがって
だんだん狭く"という原則を守りつつ、
その箇所のガイドを少しずつ前後に
動かして修正します。

ガイドの巻き方 〜WRAPPING〜

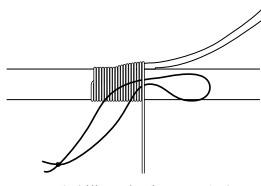
**専用のハンド・ロッドラッパーがあれば、均一なテンションでスレッドが巻け、
しかも作業途中で手が離せるというメリットがあります。**

もしハンド・ロッドラッパーがなければ……
電話帳などの厚い本の間にスレッドを通して
テンションをかける。

スレッドが転がらないよう
小鉢などに入れておく。

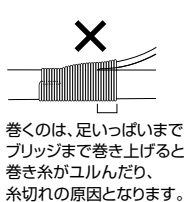
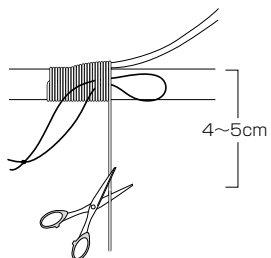
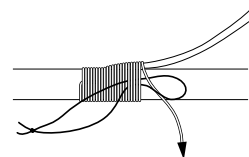
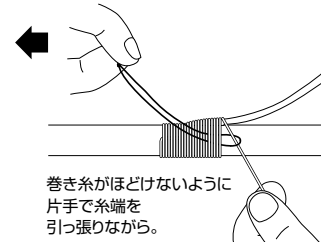
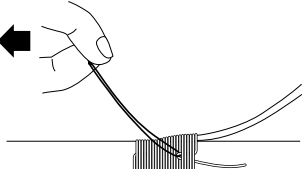
馴れると、何も使わず
どんどん巻けます。

テンション

どの方法にも共通する巻き方の基本は、
糸にテンションをかけながら手でブランクを回し、
糸どうしが重ならないように巻くことです。

① 抜き輪を作る
ナイロンライン1～2号や
巻く糸を15cmくらいに
切って結んでおく。

② 決めた位置に、
糸を×字に交差させ…

③ 巻き始めは、寝かせた糸端が
滑らないように交差部分を
指で押さえながら巻く。

巻き目にすき間が
できないよう、「寄せ角度」
をつけながら進めてください。

④ 5～6周したら糸を強めに引っぱり、
あらためて巻き始めの位置を固定する。

⑤ 糸のスキ間や位置ズレは、
爪で押して詰めたり、糸寄せで補整する。

⑥ ハミ出している糸端を切る。

⑦ 巻き糸がガイド足に登り、
さらにテープに近づいたところで
仮り止めテープをそっとはがす。

⑧ 残り6～7周くらいのところで、
抜き輪をはさむ。

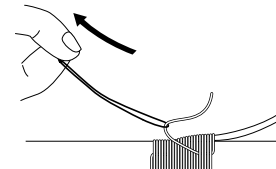
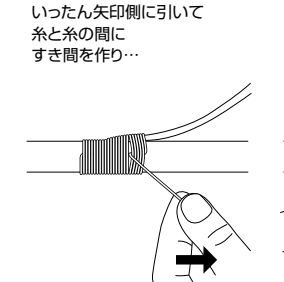
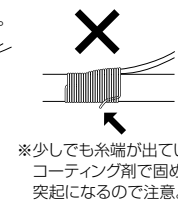
※足のすぐ横は、糸がゆるみやすい
ため、抜き輪は少し離して
はさみ込んでください。

⑨ 足をすべて巻き終えたら、
4～5cm残して巻き糸を切る。

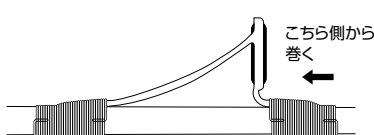
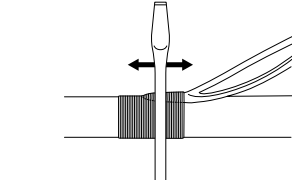
巻くのは、足いっぱいまで。
ブリッジまで巻き上げると、
巻き糸がユルんだり、
糸切れの原因となります。

⑩ 巻き糸の端を抜き輪に通す。

⑪ 抜き輪を引っぱる。

⑫ 糸の端が、巻き糸とブランクの間に
引き込まれ……

⑬ 引き出される。

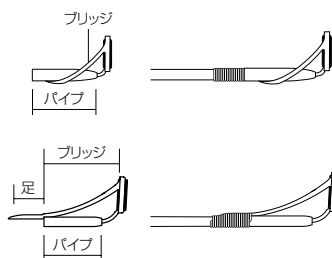
⑭ 引き出された糸を根元から切る。

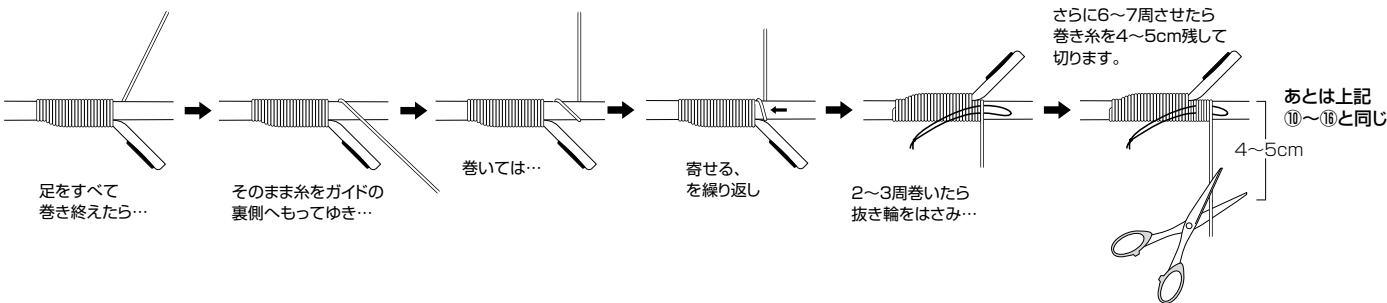
いったん矢印側に引いて
糸と糸の間に
すき間を作り…

今度は逆に引っ張りながら
刃をタテに押しあてて
糸の根元を切ります。
※他の糸を切らないように。

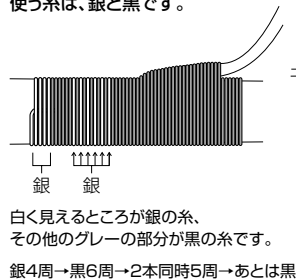
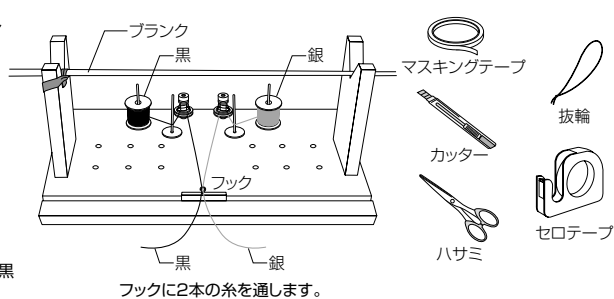
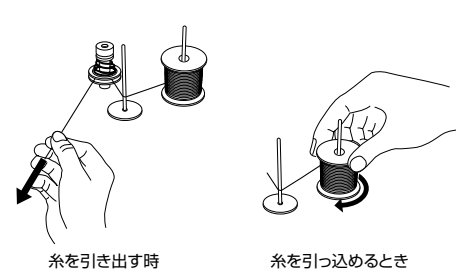
※少しでも糸端が出ていると、
コーティング剤で固めた際、
突起になるので注意。

⑮ 反対側も同じ方法で巻く。

こちら側から
巻く

⑯ 金属工具などの滑らかな部分で
巻き糸をこすり、段差をならしたら巻き終わり。

通常のパイプ型トップは、しっかり接着してあればスレッド巻きやコーティングの必要はありませんが、ブランクとの段差が気になるなら、パイプ直前まで巻くか、パイプ部の端だけ覆いましょう。

縛り式トップ（足付き）は、パイプ直前まで巻きます。

★シングルフットガイドの抜け防止・強度アップのために

あとは上記
⑩～⑯と同じ。

ハンド・ロッドラッパーを使って

2色の糸で巻く

ハンド・ロッドラッパーを使えば、複数の色の糸でラッピングができます。
ここではその初歩として、2色の糸を使った巻き方を紹介します。

コーティング　～FINISHING～

二液性エポキシ
コーティング剤
（またはウレタン）

※二液性エポキシコーティング剤は、
グリップ部やトップガイドの接着に使う
二液性エポキシ接着剤とは異なります。

計量カップか専用注射器
（いずれの場合も主剤用と
硬化用が1個ずつ必要）

溶き皿
（金属、陶器、
ガラスなど）

割箸
（液のかき混ぜ棒）

筆
（毛が抜けにくいもの）

アルコール
ランプ

アルコール

ライター

ドライヤー

フィニッシングモーター
FMM
希望小売価格 ¥7.800

マスキング
テープ

板
（ロッドスタンドの
高さ調節用）

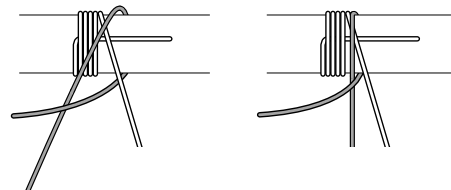
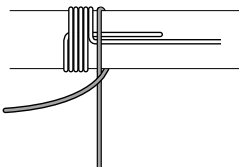
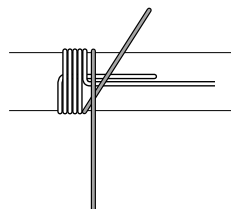
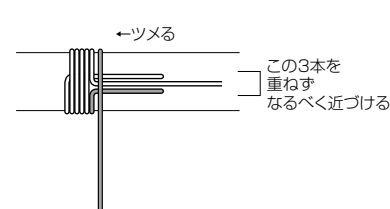
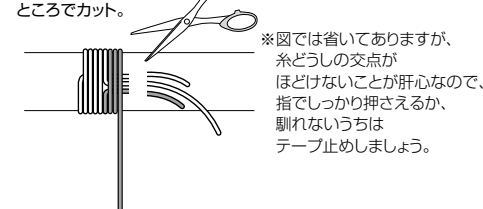
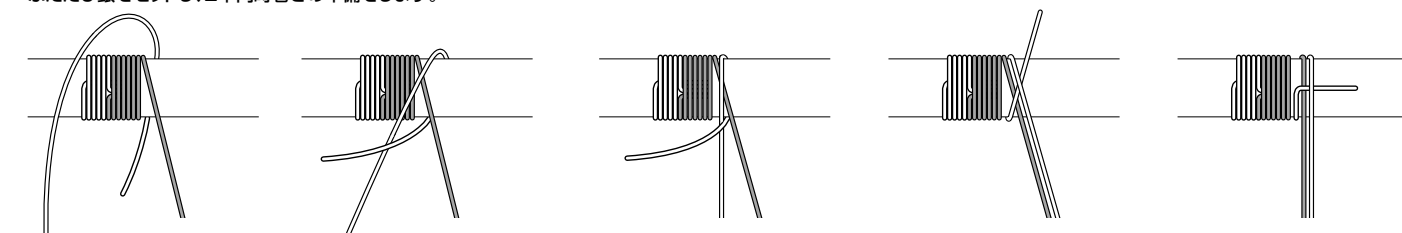
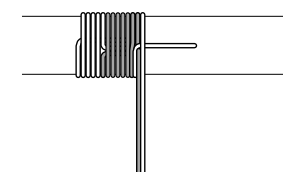
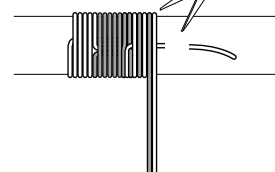
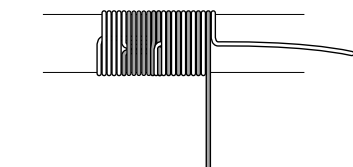
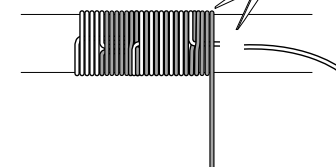
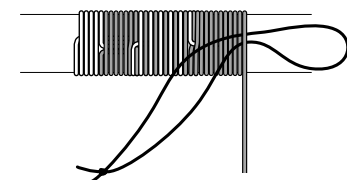
新聞紙
（液ダレ除け）

ガーゼ

ウエス

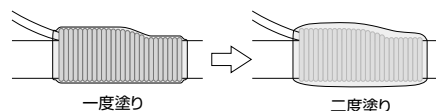
ティッシュ
ペーパー

シンナー
（筆洗い）

⚠火気、電気製品および薬品類の
取り扱いにご注意ください。

●コーティング剤に細心の注意を

混合比、かき混ぜ時間、硬化時間などが
商品によって異なる場合がありますので、
必ず取扱説明書を読み、指定に従いましょう。

●二度塗りしよう

コーティング剤のほとんどは、乾くのに長時間かかります。
コーティングは手間のかかる作業ですが、
キレイに仕上げるためには、面倒でも二度塗りしましょう。
はじめの薄塗りで液を浸透させ、
二度目の本塗りで仕上げという具合に、
初回はアセらず、気長に取り組みましょう。
※ただし、一度塗り専用のコーティング剤もあります。
　この場合は、一度塗りで仕上げてください。

●フィニッシングモーターを使おう

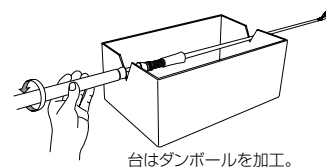
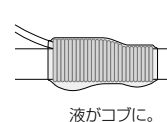
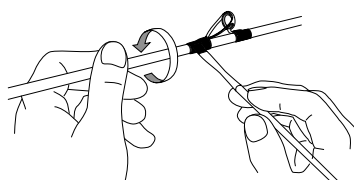
手でロッドを回しながらコーティングする人もいますが、
よほどの馴れがない限り、液が片寄ったりタレたままの状態で
固まってしまいます。フィニッシングモーターなら1分間に
約5～6回の低速で回り続けますから、
ロッドを手で回す労力が省け、ムラなくキレイに仕上がります。

無ければ……

決して液を盛らず、あくまで糸に液を染み込ませる、という感じで薄塗りします。
ただし液が盛れないぶん、耐久性・強度はそれなりです。

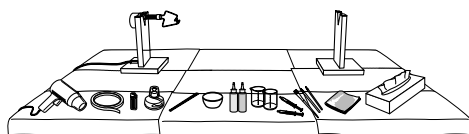
軽く筆を置いてゆく感じで
糸に液を染み込ませる。

液を盛ると、
こんなふうになりがち。

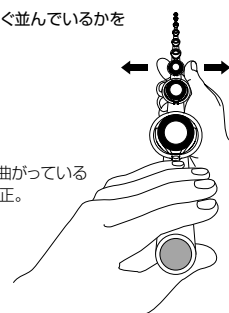
乾くまで、ときどき手で回します。

●その他

作業と乾燥は、なるべく高温・低湿で、塗った液にホコリやゴミが付かない場所で行ないましょう。
⚠ただしコーティング剤には有機溶剤が含まれているものもあるため、定期的な換気を忘れず、火気にもご注意ください。

① 作業場を作る

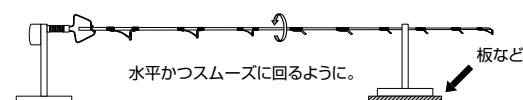
液ダレに備え、机や床に新聞紙を敷き、その上にフィニッシングモーターを設置。
次に、この作業で使用するツールをすべて手の届くところに置きましょう。
コーティング剤は、途中で席を立っている間にも硬化が進むため、
万全の準備で作業に集中できる環境を作りましょう。

② ガイド並びの修正

すべてのガイドがまっすぐ並んでいるかを
最終チェックします。

竿尻から覗き、曲がっている
ガイドを手で修正。

③ ロッドのセッティング

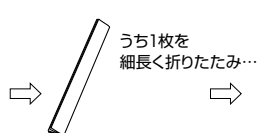
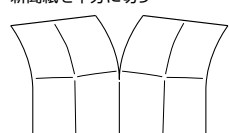
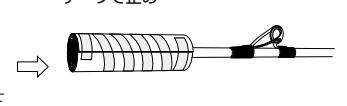
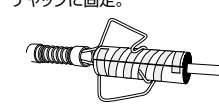
フィニッシングモーターにロッドを水平にセットします。傾いていると液が片寄りますので、
スタンドの下に板などを入れて調整します。

チャックを開いて、

ロッドを奥まで差し込む。

ロッドの固定が終わったらスイッチを入れてモーターを回してみます。もしチャックを閉めてもロッドが動いてしまうようなら・・・・・。

新聞紙を半分に切り…

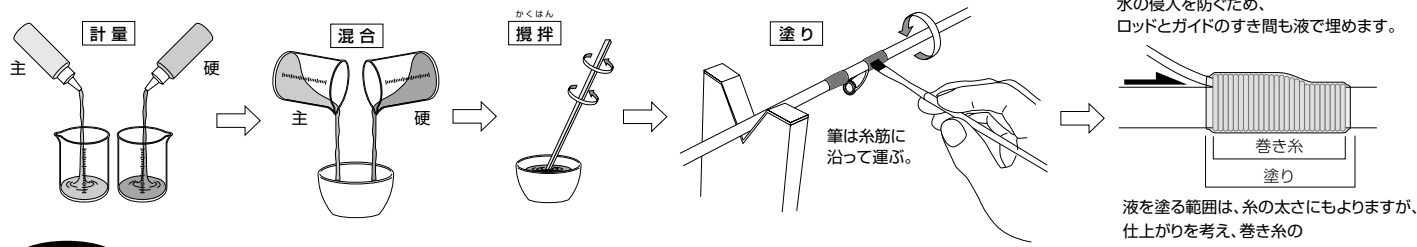
うち1枚を
細長く折りたたみ…

竿尻にしっかり
巻きつけて…

テープで止め…

チャックに固定。

塗りはじめる前に必ずモーターを
回してチェックします。

④ コーティング
コーティング剤を指定に従って混合します。

⚠コーティング剤は、ご使用前に必ず取扱説明書をお読みください。

水の侵入を防ぐため、
ロッドとガイドのすき間も液で埋めます。

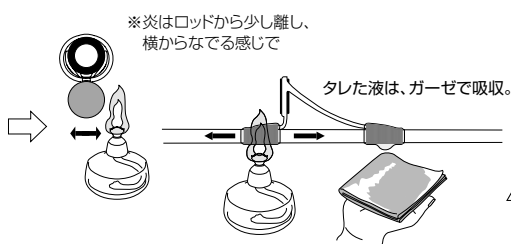
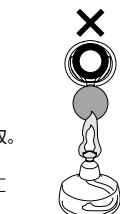
液を塗る範囲は、糸の太さにもよりますが、
仕上がりを考え、巻き糸の
ほんの少し外側までにしましょう。

特に重要! 正確に計量

適当に計量すると……
・すぐ硬化が始まってしまう
・いつまでたっても乾かない
・硬化後の見た目が悪くなる

液は多めに
・塗っている最中、足りなくなるよりは余ったほうがマシ。
・少量だと、指定の混合比率に誤差が出ることあり。

かき混ぜもしっかり
指定の時間を守り、
しっかり混ぜましょう。
・かき混ぜ不足は、計量の失敗と同じような結果を招きます。
・このとき気泡が生じてもあとで消せます。

はじめは薄く均一に
フィニッシングモーターをONにしてロッドを回しながら
糸に液を塗ってゆきます。二度塗りを前提とした場合、初回塗りのコツは、
・均一に薄く塗る。
・塗る、というより糸に筆を軽く置いてゆく感じ。
・すべての糸に液を染み込ませる感じ。
・液はあまり盛らない
……の4点です。

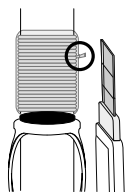
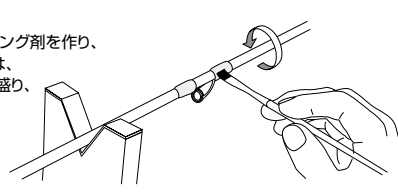
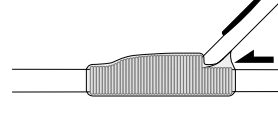
塗った液をアルコールランプであぶります。

それまでモッタリしていた液がしなやかになり、
・気泡が消える。
・余分な液がタレ落ちる。
・糸だけでなく、ガイドとブランクの間にも液が染み込む。
……という状態になります。

⚠二液性エポキシコーティング剤は可燃性ですので、炎を近づけ過ぎると、液が焼けます。

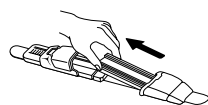
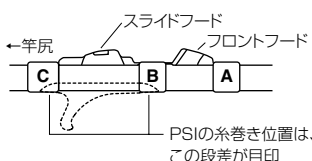
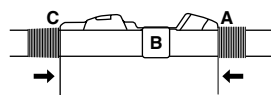
ライターだと、馴れないうちはススが付く恐れがあります。

なお、ドライヤー（HOT）でも、
これに近い効果が得られますが、
注意点は、風で液が波状に広がりやすいこと。
波状になった液は、ロッドを回し続けていれば
やがて落ち着きますが、
決めた塗装範囲（塗りのいちばん外側）を液が
オーバーしがちなので気をつけてください。

液が完全に乾くまでフィニッシングモーターで回し続けます。

途中で乾き具合が気になりますから、
余った液を新聞紙に
一滴たらしておけば、
ロッドに触れずにチェックができます。

⑤ 初回塗りが乾いたら
切りそこねた糸端が
突起になっていたら、
カッターで切ります。

⑥ 二度塗り
ツールの再チェックが済んだら、再びコーティング剤を作り、
同じ手順で塗りはじめます。二度目の塗りでは、
求める強度や耐久性を考え、少し厚めに液を盛り、
完全に乾くまでフィニッシングモーターで
回し続けます。

シングルフットガイドは裏側に、
こんな感じで液を盛ると、
抜け防止や強度アップになります。

プレートシートの取り付け　ツールも方法も、ガイドの取り付けと全く同じです。

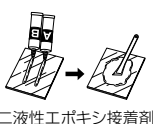
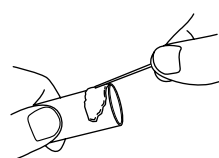
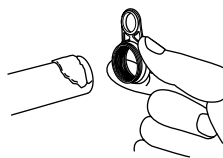
① NSシートの場合は、
まずプラスチックカバーを
外します。

② 取り付け位置を決め、糸を巻く3点をマスキングテープで
仮り止めします。この時、プレートシートとガイドをまっすぐにします。
※もしシートがNS-6で、PSIも同時に取り付けるなら、このとき一緒に仮り止めします。

③ 仮り止めを一ヶ所ずつ外し、順に糸を巻いてゆきます。
この時、A→C→BまたはC→A→Bの順に巻いてゆくと、
プレートシートをしっかり固定できます。
糸の巻き方は、P.53『ガイドの巻き方』をご覧ください。
※PSIが有っても無くても、糸の巻き方は同じです。

A・Cは、それぞれ矢印の方向に巻き進めます。
Bは、自分が巻きやすい方向から巻きます。

④ コーティングの方法も、ガイドの場合とまったく同じですので、P.56『コーティング』をご覧ください。
※PSIが有っても無くても、コーティングの仕方は同じです。

※本体に液が着かないよう
注意してください。

※NSシートのプラスチックカバーは、
液が完全に乾いてから元に戻してください。

口金ガイドの取り付け　振出竿用ガイドは、元側から取り付けてゆきます。

接着剤は、竿側に塗り、

二液性エポキシ接着剤

ガイドを、回しながらゆっくり押し込み、向きを合わせます。はみ出した接着剤はすぐに拭き取り、さらにアルコールで落とします。

※ガイド側に接着剤を塗ると、
竿の内側に接着剤が
入ってしまう恐れがあります。